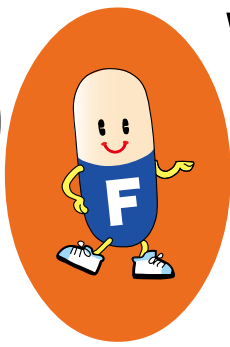


POWER!



2021年
3月
vol. **73**

令和3年(2021年)
3月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 隔月発行

<http://www.yakuren.jp>

支援者名簿収集に関する説明会が WEBで開催される!!

令和3年2月1日(月)午後1時30分より、神谷まさゆき中央後援会主催によるWEB説明会が都道府県神谷まさゆき後援会事務局を対象に開催された。

開会挨拶

畑澤常任幹事の司会で始まり、まず山本会長より「日本薬剤師会が成すべきこと、日本薬剤師連盟が成すべき事を正確に確実に進めていくことが、薬剤師の将来に、ひいては国民のためになる医薬品提供体制に繋がるものと確信している。名簿活動は2人の組織代表を1人にしないためのシステムである。皆さんとお目にかかることができるようになったら、一生懸命に全国を廻る。それまでの間、支援者名簿の収集にご尽力いただきたい。」と開会の挨拶があった。



名簿説明

その後、大澤副会長より事例を示し、支援者名簿の収集方法と考え方について説明があった。詳細については、都道府県神谷まさゆき後援会事務局に動画が配布されるので参考としてほしい。



神谷まさゆき氏挨拶

「組織内統一候補になってから都道府県に一度は直接、足を運びご挨拶させていただいた。同様にWEBでも、ご挨拶の時間をいただきたい。訪問時には新型コロナウイルス対策に事前の準備に、物心共に協力いただきたい。新型コロナウイルスに感謝申し上げる。新型コロナ



閉会挨拶

最後に岩本副会長より「コロナ禍では、名簿活動がキーポイントになる。70万の名簿を目指し、皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。」と訴え閉会となった。



全国の皆様のご協力をお願いします!!

なぜ「名簿活動」が必要なの?

「神谷まさゆき副会長への支援の輪を広げるために、討議資料と共に、プロフィール・政治信条等について説明し、顔と氏名を覚えていただき、紹介者名簿と支援者名簿に記載された内容にご同意を得て、ご署名を戴く事で、紹介者・支援者同士の結束を固め、紹介者・支援者の方々に「神谷まさゆき副会長」が日々の活動している状況を直接お知らせするために集めています。

日々の活動は、日本薬剤師連盟の機関誌「POWER」だけではなく、「神谷まさゆきホームページ」「Facebook 薬剤師「神谷まさゆき」の活動日誌」「神谷まさゆき公式LINE」でお知らせをしています。是非ともご理解を賜り、支援の輪を広めて参りましょう。

紹介者名簿

支援者名簿



風力計



日本薬剤師連盟
東京ブロック 永田 泰造

65年目のプロジェクト

唐突ですが、この春、前期高齢者の仲間入りをしました。

高校時代の友人の話では、同窓生のほとんどが楽しい余生を過ごしていると、仕事をすることがまるで異端児であるかのようにならざるを得ない状況がもたらされました。わが身の老後を考えて、すでに青春時代を過ごした大阪には根城となる場所もありませぬ。何処で夢をかなえようかと考えれば、必然的に故郷の美家ということになります。実家は、瀬の浦と尾道の間、川の子供のころから夏休みは毎日のように海に出かけ釣りや磯遊びをしていました。8月初めの大潮時期は広大な干潟が出現し、川のような流れに座れば、デキハゼ(稚魚)が群れを成して周りに集まり、潮溜まりに目を向けると逃げ遅れたエビや時にはカブトガニまで遊び相手になる自然豊かな海岸でした。ところが、近くの港湾が貯木場となりその周辺が埋め立てられたとたん、ヘドロの海と化しハゼすら住まない海となってしまう。5年ほど前までは、車で30分も走れば賑わった漁港にたどり着け、堤防釣りを楽しめたのですが、近年では子イカや小鰻・イナッコの群れる姿すら見えなくなり「お魚さんはどこ行った」と嘆いております。そう、私の夢は鄙びた漁港の堤防のぬめり存在になることなのです。堤防に流れ着く藻にアミメハギが纏わりつき、「コマセを見つけたとたん集団で追いかける姿を見ると、何か滑稽で、でも生き延びていく姿が、わが姿と重なる部分があるのでは」と思っています。

かみや 神谷まさゆき副会長活動報告(6)



業界意見交換会、特別講演会、長崎県(薬剤師連盟役員会)であった。

また、同期間においてウェブで活動してきたのは、新潟県(地域薬剤師会会長協議会)、岡山県(薬剤師会役員会)、広島県(学校薬剤師研修会及び薬事衛生指導員講習会)、薬剤師禁煙支援アドバイザー講習会)、千葉県(地域職域代表者拡大会議)、鳥取県(薬剤師連盟総務会)、福井県(薬剤師連盟総務会)、三重県(新任薬剤師研修会)、鹿児島県(災害支援薬剤師育成研修会、新春学術講演会)、北海道(薬剤師会理事会)、埼玉県(地域薬剤師会代表者会議)、青森県(薬剤師会理事会)、兵庫県(健康サポート薬局研修会)であり、日本薬剤師連盟の役員による神谷副会長の紹介に続き、本人から挨拶を行った。

また、可能な範囲で、都道府県の支部薬剤師会の集会やブロック会議等でも挨拶の機会を得ている。

一方、2月からは支部訪問活動が四国からスタートしている。しかし、緊急事態宣言が発出されており、第一週目の香川県においては県内の移動自粛措置の期限の延長が決定していることな

どから延期となり、3月下旬の活動を検討している。第二週目の高知県においてはリアルな訪問に代わる方法として、県業役員が薬局を訪問し、持参したスマホを使い、ビデオ電話で神谷副会長の挨拶を受けてもらう活動と夜にはZOOMを利用し、訪問できなかった薬局の方々に順次入ってもらい会話をするという方法で活動した。徳島県、愛媛県においても、支部訪問の方法について検討を急いでいるところがある。

支部訪問活動については、「神谷まさゆき全国支部訪問実施要領」に基づき順次実施して行くこととなるが、具体的な活動方法については、新型コロナウイルスの感染拡大の推移を勘案しなければならぬ。活動の基本はリアルな訪問であるので、訪問前に、訪問者がPCR検査を行うことなどを内容とする「全国支部訪問における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を作成し、2月15日に都道府県に通知した。

コロナ禍での活動となるが、感染防止対策を徹底しながら実施することとされているので、ご協力をお願いしたい。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、年が明けても終息の気配がなく、1月7日から1カ月間にわたる二度目の緊急事態宣言が発令され、更に10都府県にお

いては3月7日まで延長された。神谷まさゆき副会長の活動は、昨年12月までは本人による訪問(以下、リアルな訪問)が可能であったが、年明けからはウェブに

よる活動が中心となっている。12月15日から2月10日までの期間に、本人及び日薬連盟役員が訪問することができたのは、熊本県(改正薬機法及び

感染症拡大防止支援事業説明会)、愛知県(薬剤師会地域職域会長協議会)、京都府(薬剤師会理事会)、和歌山県(薬剤師会理事会・地域職域会長会議・総務会、薬



愛知県



熊本県



京都府



和歌山県



長崎県



高知県

令和2年度第三次補正予算案、 令和3年度予算案等が決定される!!

令和2年12月、政府は第三次補正予算案、令和3年度予算案等を決定した。日本薬剤師会と日本薬剤師連盟が要望していた事項(POWER今月号の自民党薬剤師問題議員懇談会世話人会・総会の記事を参照)に関係する部分を解説する。

1 令和3年4月の薬価改定 (令和3年度予算)

平均乖離率8%の0.5倍〜0.75倍の間である0.625倍(乖離率5%)を超える価格乖離の大きな品目(12,180品目、約7割)を対象に改定する。但し、前回の薬価調査の乖離率7.2%から今回の薬価調査は乖離率8.0%となり0.8%上回ったことから、新型コロナウイルス感染症の影響とみなし、調整幅2%とは別に、削減幅を+0.8%分緩和した。

これにより薬剤費の削減額は▲4,300億円程度(国費▲1,000億円程度)となる。

2 令和3年4月の介護報酬改定 (令和3年度予算)

改定率は全体で+0.70%(国費196億円)とする。+0.70%のうち+0.05%相当分を新型コロナウイルス感染症対応分として令和3年9月末までの間、特例的な評価として確保する。10月以降については柔軟に対応する。

単一建物 居住者人数	単位数
1人	560→565単位
2~9人	415→416単位
10人以上	379単位(変更なし)
1人	509→517単位
2~9人	377→378単位
10人以上	345→341単位
情報通信機器を用いた服薬指導(居宅管理指導と同日に行った場合を除く)を行った場合(1月に1回に限り)	
45単位(新規)	

注1) 令和3年4月1日施行予定
注2) 令和3年9月30日までは、基本報酬に0.1%上乗せ(四捨五入)
(病院又は診療所の薬剤師 単一建物居住者1人:565×100.1%⇒566単位(+1単位)、薬局の薬剤師 単一建物1人:517×100.1%⇒518単位(+1単位)、その他変更なし)

3 診療報酬・調剤報酬上の対応 (予備費、第三次補正予算、令和3年度予算)

○感染予防策を講じた小児の外来診療等に係る評価
調剤:12点(12月15日から令和3年9月調剤分まで適用)
6点(令和3年10月調剤分以降)
○感染予防策を講じた一般診療等に係る評価
調剤:4点(令和3年4月調剤分から9月調剤分まで適用)

4 医療機関・薬局等の感染拡大防止等の支援(第三次補正予算)

○薬局:20万円を上限として実費を補助(国による直接執行)
12月15日〜3月31日にかかる費用が対象
(参考:第二次補正予算)
○医療機関・薬局等における感染拡大防止等の支援
薬局:70万円を上限として実費を補助

5 令和3年度薬剤師・薬局関係 予算案の概要(新規予算)

○薬局における薬剤交付支援事業 11億円(第一次補正では4.6億円)
○新型コロナウイルスに感染した薬剤師の代理薬剤師派遣体制確保事業
○感染により休業となった薬局に対する継続再開支援事業

6 令和2年度第三次補正予算

○新たな日常に対応する処方箋の電子化に向けたシステム構築 3,803百万円
○薬剤師の資質向上に向けた研修に係る調査・検討 32百万円
○成人医療等分野の薬物療法に係る地域の連携体制構築 6百万円

7 令和3年度税制改正

○セルフメディケーション推進のための医療費控除特例措置の延長等
○試験研究を行った場合の法人税額等の特別控除の延長及び拡充

(ICTを活用した業務等に係る薬剤師の資質向上)
○全国薬局機能情報提供制度の全国統一的な検索サイトの構築
134百万円

8 全世代型社会保障改革の方針

○後期高齢者の自己負担割合について 後期高齢者であっても年収200万円以上の方に限って、その医療費の窓口負担を2割とし、それ以外の方は1割とする。
○後期高齢者の自己負担割合について 後期高齢者であっても年収200万円以上の方に限って、その医療費の窓口負担を2割とし、それ以外の方は1割とする。

9 令和3年度税制改正

○セルフメディケーション推進のための医療費控除特例措置の延長等
○試験研究を行った場合の法人税額等の特別控除の延長及び拡充

自由民主党薬剤師問題議員懇談会世話人会並びに総会が開催される!

令和2年12月1日12時から、自由民主党薬剤師問題議員懇談会世話人会(伊吹文明会長他10名)がザ・キャピトルホテル東急で開催された。

世話人会は、事務局長を務める藤井基之参議院議員の進行で始められた。伊吹文明会長の挨拶に続いて、都道府県薬剤師連盟から推薦された新規入会希望議員(衆:3名、参:4名)の入会及び令和元年11月27日から令和2年11月30日までの会計報告が諮られ、了承された。続いて、山本日本薬剤師連盟会長より、令和2年3月25日の令和元年度定時評議員会において組織内統一候補者として選任した神谷政幸(かみやまさゆき)副会長を紹介し、本田顕子参議院議員に戴いたご支援に増して、引き続きのご支援を賜りたいと挨拶がなされた。

続いて森日本薬剤師会副会長から「日本薬剤師会における主な課題および要望」について、「新型コロナウイルス感染症への対応」「医療保険制度改革」「来年度薬価改定」「オンライン服薬指導」「OTC医薬品販売体制」「薬剤師(個人)・薬局(施設)認証システムの基盤整備」「医療機関の敷地内に開設される薬局について」の項目について資料を用いて説明が行われた。意見交換の後、総会において十分な説明を行うよう伊吹文明会長が要望し、閉会となった。

薬剤師問題議員懇談会総会は、同日・同所で16時から開催され、122名の国会議員、74名の代理人が駆けつけた。伊吹文明会長の挨拶、新規入会議員の報告及び会計報告がなされ、続いて、世話人会と同様に、日本薬剤師会より課題と要望が説明された。特に、新型コロナウイルスの感染拡大により薬局経営が厳しい状況に置かれていること、新型コロナウイルスワクチンの優先接種、さらに診療・検査医療機関と連携して対応する薬局において患者が安心して医薬品を入手出来るよう地域の医薬品供給を担う薬局の感染防止のための体制整備についての財政支援等について要望し、活発な意見交換の後、閉会となった。





藤井もとゆき 国会レポート

薬剤師・薬学博士
情報監視審査会会長・参議院議員 藤井基之



新型コロナウイルスワクチンの接種開始

新型コロナウイルス感染症について、この欄で初めて取り上げたのは昨年の3月でした。あれから1年、感染症は収まるどころか世界各地で拡大が続き、世界の感染者数は1億人を超え、死亡者数は250万人に達しています。日本国内も昨年末から新規感染者が急増し、感染者数は約43万3千人、死亡者数は約8千人(2月28日現在)となっています。年明け早々の緊急事態宣言の再発令により、感染拡大傾向は全国的に改善してきているものの、収束への目途が立たない状況に変わりはありません。

こうした中、感染症収束への切り札と期待されるのが、欧米等で接種が進む新型コロナウイルスワクチンです。日本でも、昨年末にファイザー株式会社が申請した新型コロナウイルスワクチン「コミナティ筋注」が、2月14日に初めて特例承認されました。政府は2月17日から医療従事者を対象に優先接種を開始し、4月には65歳以上の高齢者を対象とした接種を開始するとしています。

新型コロナウイルスのワクチンの接種は、これまでに経験の無い大規模なものとなり、接種場所の確保や接種体制の整備、確実なワクチン輸送等、きめ細やかな準備が必要となっています。薬剤師の皆さんには、接種会場での薬液充填や接種者の服用薬剤の確認等の対応が求められます。更に、かかりつけ薬剤師として、接種前の質問や相談、接種後の体調変化や副反応への対応等も重要な役目となります。

感染症の収束に向けて、薬剤師をはじめ医療関係者はもちろん、国民一丸となった取組が重要となっています。

神谷まさゆき 物語

～第5回～



製薬会社でMRとして働いていた私は、父から病気の知らせを受けて数日後の退職を決意しました。結果として、残念ながら薬局薬剤師として父と一緒に仕事をすることが叶いませんでした。しかし、子供

の頃から何気なく見聞きしたことは大きいのだな、と実感したのが一般用医薬品の販売や学校薬剤師業務です。

私が薬局内を走り回っていた小さい頃を知っている近所の方々が来局して、健康に関する相談を持ち掛けてくれます。ところが、医療用医薬品のMR職の経験しかなかった私はなかなか満足いく対応が出来ませんでした。その都度この人たちの役に立てるように、一般用医薬品や健康食品についても勉強をしなければと強いモチベーションを覚えました。



学校薬剤師として小学校で「タバコの害から身を守る」授業を実施

様々な相談に
対応できるよ
うに薬局内の
ラインナップ
を充実させ、



水泳大会でのスポーツファーマシスト活動

セルフケア・セルフメディケーションに關する喜びを深めていきました。そして、ぼんやりとですが、父が学校薬剤師業務をしていたことが記憶の片隅に残っていたことから、学校薬剤師にも興味を持ち、積極的に関わるようになりました。一般用医薬品販売と学校薬剤師、保険調剤に携わっていたことから、スポーツファーマシストの資格制度が始まった時には是非関わりたいと思い、すぐに申し込みをしました。2012年に開催された「ぎふ清流国体」の際には、お隣の蒲郡市「海陽ヨットハーバー」でセーリング競技が開催され

たため、アウトリーチ活動を行ったことは良い思い出になっています。

そのように様々な活動に關わっていたことや色々な縁で、2006年に豊橋市薬剤師会理事に就任することになりました。担当事業が危機管理担当であった私は、父の縁もあり愛知県薬剤師会危機管理部会にも携わる機会をいただきました。その任期中に部長や同じ三河地方の岡崎薬剤師会の先生のご指導を受け、豊橋市薬剤師会防災マニュアルづくりを行ったことがきっかけとなり災害対策に強い関心を持つようになりました。この分野には、後に2017年に愛知県薬剤師会常務理事としても関わることになり、現在の国土強靱化への意欲にも繋がっています。

ちなみにこの頃に仕事以外でも地元の地縁をつくりたいと考え、まちづくり団体である豊橋青年会議所へ2013年

に入会をしました。豊橋青年会議所には趣味の会「らぶらぶテニスクラブ」というテニスチームがあり、ひよんなことからそちらへ入会することになりました。実はそのチームこそ私が幼い頃に父が参加していたテニスの練習会だったので、そんな縁もあり、富山県で開催された全国大会でのチーム優勝や2019年に自身が代表幹事を務めて豊橋で全国大会を開催するなど、貴重な経験をさせてもらうことができました。しかし、それ以上にこの青年会議所での経験が私の人生を大きく左右することになるとは知る由もありませんでした。



テニス大会で悲願のチーム優勝を果たした記念撮影

この青年会議所での経験が私の人生を大きく左右することになるとは知る由もありませんでした。

編集後記

今年に入ってから1月7日から、2度目の緊急事態宣言が発令されました。1年以上コロナと闘い続けて、東京では1日の感染者が2,000人を越える日があり驚きました。1月末になりやっと1,000人を切って来ましたが、ここで踏みとどまらないうえに拡大する恐れが目に見えています。2月に入り、まだ解除は難しい状況です。やはり1か月の延長となりました。目に見えない敵との闘いは、手洗い、マスク、三密を避ける、複数での会食をしない、と基本を守って日常を過ごすことにつきます。また、かかってしまったら、速やかに保健所の指示にしたがって、自分と家族を守るための対策を行うことです。

今後は順次ワクチンの接種が始まります。なるべく早く多くの方々がワクチンを打つことにより、感染拡大が終息して行くことを願います。医療と経済、両輪とも回っていない日本の政治も回っていきません。逆に政治がきちんと回らないと、医療安全、経済安定は望まれません。医療人は休むことなく働いています。薬剤師もワクチン接種時の協力を求められています。この時代を乗り越えるため、1人1人共に知恵を出し合いたしましょう！

薬局は感染対策に70万円を上限とする補助金がつきました。日常業務に要する消耗品も対象です。12月15日に第3次補正予算案が閣議決定され追加支援策で、さらに20万円までつくことになりました。せっかくなので補助金ですのでもまだ申請していないところはぜひ活用してください。まだまだコロナ対策の継続が考えられますので、今後も費用がかかります。当薬局も11月に70万円の申請ができました。また、数年は持つという光触媒による抗菌コーティングを薬局全面に施工いたしました。皆様もぜひ忘れずに取り組んでください。

広報委員

- 鳥海 良寛、石井 甲一、大澤 泰輔、丹羽 松弘、橋本 昌子、加茂 雅行、栗原 健、渡邊美知子

(M・W)

オレンジ日記

自民党 厚生労働部会副会長
参議院議員・薬剤師 本田顕子



自殺対策強化月間

「自殺対策基本法」では、例年、月別自殺者数の最も多い3月を「自殺対策強化月間」と定めています。地方公共団体、関係団体等とも連携して「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けて相談事業及び啓発活動を実施しています。

長らくコロナ禍における生活で、日本の自殺は11年ぶりの増加となりました。自殺は複合的な要素が絡んでいるのでコロナ禍だけが直接の原因とは断定できませんが、昨年の10月からの統計結果を見ますと増加しています。小・中・高校生の自殺者数も統計開始以来最多となりました。困窮する女性の支援についても対策の重要性が高まり、2月12日に「孤独・孤立対策担当大臣」を坂本哲志一億総活躍担当大臣が担当されることとなり、内閣官房に担当室が設置されました。

ところで、自民党には組織運動本部の1つに女性局があり、様々な取り組みが行われています。今年からは、自民党女性局の地方議員を対象とした「政策ミーティング」と題した勉強会が始まりました。第2回目のテーマは要望が多かった「自殺」を取り上げ、私が講師を務めました。

私は自殺防止対策の最終目的は地域の皆様の命を守ることとあり、地域・社会づくりと密接な関係にあると思っています。加えて、私は今回の講演資料を作りながらもう一つの言葉を思い出していました。2025年に向けた「地域包括ケアシステム」です。包摂的に地域医療を支える仕組み作りも地域の皆様の命と健康を守るための仕組み作りだと考えます。どんな時でも地域の皆様の命を守れるように、この困難な時を乗り越えて行きたいですね。

引き続きのご指導をよろしくお願い申し上げます。